

クリノ株式会社



代表取締役社長
佐竹 典明 氏

◆企業の概要

企業名：クリノ株式会社

代表者：代表取締役社長 佐竹 典明

住所：仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-40
東北大学ビジネス連携
インキュベーター103号室

設立年：平成19年

業種：医療機器開発

資本金：51百万円

従業員数：2名

◆事業の概要

当社は、東北大学先進医工学研究機構における4つの優れた医工学の研究成果を事業化し、患者への臨床応用の実現を目指して設立された東北大学発のベンチャー企業。

血管の狭窄等の原因により起こる狭心症や脳梗塞等の治療時に、血管内に挿入して血流を改善する金属製の医療器具「ステント」において、高強度化・薄型化を実現させる加工方法を開発。「ステント」事業において、医療機器メーカーからの受託加工による事業化を目指す。



本社入居（略称「T-Biz」）ビル

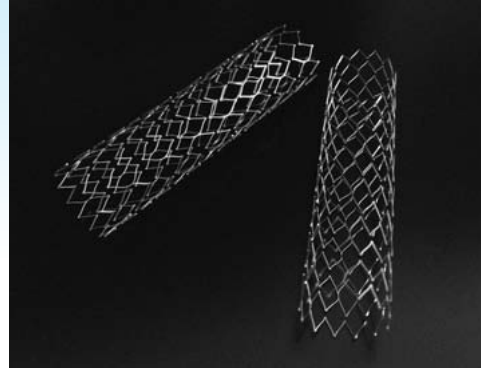


本社

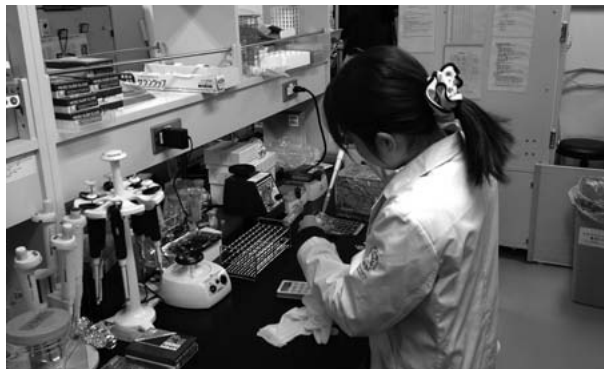
「水レーザー技術」を世界で初めてステント加工に適用する方法を開発し、ステントの高強度化・薄型化を実現、医療分野における血管内治療を進歩させる画期的な技術として大きく期待



レーザー加工機



ステント



作業風景



医用チューブ

◆受賞の理由

「ステント」製造は、長尺チューブ状の金属材料をレーザー加工により、複雑な円筒形状に切断する方法が主流である。しかし、レーザー加工に対応できる長尺チューブを作製するためには、金属の強度等の特性を低下させて作製する必要があるため、「ステント」の強度不足が実用化の障害となる場合もあり、「ステント」の高強度化が課題であった。

当社は、「ステント」の管^{くだ}にむかって柱状に吹き付けた水の中に、レーザー光を通して加工する「水レーザー技術」を、世界で初めて「ステント」加工に適用する方法を開発した。この加工方法の開発により、強度等を低下させる必要がない短いチューブでも「ステント」製造が可能となった結果、高強度の金属チューブを「ステント」製造に応用することが可能となり、従来の「ステント」より強度が2.5倍以上に高まった。これにより、末梢血管系「ステント」の高強度化および薄型化が可能で、現在、開発試作は完了し販売に向けた開発段階まで進み、今後の事業展開が大変期待できる。

また、強度不足が実用化の障害となっていた生体吸収型マグネシウム「ステント」においても高強度化が可能となり、現在、薬事申請に向けた種々の試作・試験等を実施し、実用化を目指している。「水レーザー技術」による「ステント」加工方法は、医療分野における血管内治療を進歩させる画期的な技術であり、高く評価できる。

当社は、「ステント」事業の他、アルツハイマー発症前診断・不妊治療機器・糖尿病根治治療の各医療分野においても研究開発を進めており、その技術力は非常に優れ、最先端医療の進歩に向けての貢献度は高く評価される。医療分野において、今後更なる飛躍が期待できる企業である。